

カトリック 新潟教区報

第244号 2011(平成23)年10月28日 発行

編集・発行 カトリック新潟教区広報委員会
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通1-656
TEL 025-222-7457 FAX 025-222-7467



教区
100周年

あなた方は地の塩、世の光である

100年の歩みに感謝し
宣教する共同体をめざして

教区百周年に向け

司教メッセージ発表

新潟教区百周年を祝いながら

私たちの教会共同体である新潟教区は、来年二〇一二年、知牧区として独立してから百年の節目を迎えます。また教区に昇格し初代の伊藤司教様が任命されてから五十年の節目の時でもあります。

百周年のお祝いを、単に盛りだくさんの記念行事をもつての楽しいひとときにと終わらせるのではなく、これまでの新潟教区における私たちの歩みをしっかりとふりかえり、私たちひとりひとりに主から与えられた使命をあらためて噛みしめ、新たな一歩を踏み出す力を得る豊かな「時」にしたいと思っています。

百周年の記念行事を計画するため、実行委員会が組織され、いくつかの部会に分かれて十分な討議が繰り返されてきました。委員会の方々が準備してくださった計画に従い、皆様と一緒にこの大切な時を歩み始めたと思います。記念行事は、ともに唱える祈りによって導かれ、一年の間継続します。百周年のお祝いを、まず祈りを持って始めましょう。

この特別な一年のために、教区の皆様に一緒に唱えて頂きたい祈りを作成いたしました。どうぞ、お一人お一人がこの祈りのカードを手にされ、この一年を通じて、新潟教区が頂いてきた恵みに感謝し、新たな一歩を力強く踏み出すことができるように、ともに祈ってください。

各小教区にあつては、それぞれの事情に応じて頂ければよいのですが、主日には是非一同で唱える機会を設けて下さるようお願いいたします。このお祈りは、二〇一

年十月二日の主日のミサから唱え始め、来年二〇一二年十二月末日まで継続いたします。

また百周年を目に見える形で意識し、教区内の連帯を深めるために、十字架リレーも行います。十一月二十日の王であるキリストの祭日に新潟教会で出発式を行い、二本の十字架が教区内を巡ります。日程など詳細は別途お知らせいたします。

新潟教区の皆様、百年の祝いの時を、霊的実りのある豊かな時として参りましょう。

二〇一一年九月二十五日

カトリック新潟教区司教

タルチシオ 菊地 功

新潟教区百周年の祈り

いつくしみ深い父よ、新潟教区百周年を迎えるにあたり、あなたを賛え、感謝して祈ります。

あなたは、秋田、山形、新潟の地に福音の種を蒔き、その後も多くの働き手を育ててくださいました。あなたのみ旨によって先人たちの信仰は今も途切れることなく私たちに受け継がれています。

父よ、新しく始まる百年に向けて、私たち新潟教区が、世代や国籍を超えた交わりの共同体に成長するよう導いてください。

一人ひとりが信仰、希望、愛のうちに生き、地の塩、世の光として、福音を証することが出来ますように。

私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(新潟司教認可)

教区百周年の準備進む

新潟教区創設百周年記念事業が、いよいよ来年十月と目前になってきました。

二〇〇九年五月に「教区百周年実行委員会」が特別委員会の一つとして設置されて以来二年四ヶ月が経過しました。そこで、この間の準備状況や今後の予定についてお知らせいたします。

百周年記念事業は、これまでの「歴史の重みを認識し、先人たちの信仰と宣教に生きた足跡をたどり、父なる神への新たな賛美と感謝の機会と共に福音宣教に招かれている私たちが、現在取り組んでいる優先課題に力強く前進する決意を新たにすること」を目指して行われるものです。

事業全体の概要は別表の通りです。二〇〇九年十月に基本的な構想



2011年5月正副部会長会議

が出来があり、その後は実行小委員会と事務局合同会議を毎月定例化し、情報の収集および調整等を通して二〇一〇年五月に各事業部会が組織され、十一月には百周年のメインテーマとサブテーマが決まりました。

また、二〇一一年二月には各地区責任者による「情報交換会」を開催し、地区での百周年の事前事業にどう取り組むかを話し合いました。

この話し合いの中で定期的な情報交換の必要性が指摘され、四月十六日に「実行委員会ニュース第一号」が発刊されました。このニュースは今後も基本的に三カ月毎に第六号まで発刊する予定です。

さらに、五月には各事業部の「正副部会長会議」が開かれ各事業部の方針や概要が確認されました。

このような経緯の中ですでに皆様にご案内しましたようにシンボルマークが今年三月に決まりました。そして、十月から教区一斉に開始する百周年の祈りのカードにもシンボルマークを入れることになりました。

これからの教区全体の事前記念事業として十一月二十日から全小教区を回る「十字架リレー」が始まります。現在十字架リレー部会で具体的な実施計画を検討中ですが、ただ十字架をリレーするのではなく、リレー前後の教会相互の巡礼や共同ミサ等により同じ百周年を迎える新潟教区の司祭、修道者、信徒として交わりを深めて頂きたいと思っています。

新潟教区創設百周年の主役は教区の信者一人ひとりです。皆様の大きな関心と温かい理解、積極的なご協力をお願い致します。

(百周年実行委員会)

『教区100周年記念事業概要』

事業構想	1. テーマ ・メインテーマ=「あなた方は地の塩、世の光である」 ・サブテーマ=「100年の歩みに感謝し、宣教する共同体をめざして」 2. 推進事業 1) 100周年記念教区信徒大会(第18回新潟会場)の開催 ※ねらい=取組んでいる三つの優先課題の現状、成果・問題点、更なる今後の取組みを明らかにし、大会後の具体的行動に繋げる。 ①シンポジウム形式を検討する。 ②各地区及び小教区は教区大会までの期間、取組むべき優先課題について積極的に挑戦する。 2) 特に2011年1月1日から2012年10月6日の期間を「100周年準備期間」とし秋田、山形、新発田、新潟、長岡の各地区独自記念行事の実施を通して教区全体での神への賛美と感謝の心を表す。 ※行事例=・各種の信徒の集い ・在日・滞日外国人の集い ・青少年の集い ・子供の集い ・記念講演会、各種コンサート ・地区内教会徒歩巡礼 ・その他 3) 個人及び共同体が心をつなげて100周年を迎えるために次のことを推進する。 ①「新潟教区100周年の祈り」制定し、その祈りの場を設定する。 ②記念の年となる2012年に教区内小教区間の「十字架ルー」を実施し、終了十字架は教区大会会場に顕示する。 ⇒できるだけ、単に十字架だけのルーではなく、この機会に近隣教会との交流を併せるなど物心両面の行事を推奨する。 4) 教区青年の会主催の事業を行う 5) 記念日事業として、次の事柄を行う。 ①記念ミサ、式典を行う。 ②記念教区信徒大会を行う ③記念行事(祝賀会)を行う。 ④記念誌を発行する。 ⑤100周年記念携帯ストラップを作成販売する。				
組織	実行委員長 (菊地司教) 事務局(3名、会計担当を含む) 実行委員会(含、小委員会4名) 記念教区信徒大会部会(14名) 記念100周年の祈り制定と十字架ルー部会(8名) 記念ミサ部会(6名) 記念祝賀会部会(6名) 記念誌部会(12名) 記念ストラップ部会(3名)				
年度	2009年(平成21年)	2010年(平成22年)	2011年(平成23年)	2012年(平成24年)	
記念事業・会議等実施と予定	7月20日第一回実行委員会 10月100周年記念事業概要「たたき台」作成	2月事業推進委員の推薦 4月事業推進委員と所属部会決定 4月29日第二回実行委員会 5月23日合同部会会議(正副部会長決定) 9月司教様書簡「100周年を迎えるにあたって」 9月事前地区事業の実施要請文書発信 10月記念事業予算決定(約750万円) 11月100周年テーマ(メイン・サブ)決定 12月100周年特別特別献金開始～当日迄 実行小委員会・事務局合同会議(合計9回開催)	→ ・秋田、山形、新発田、新潟、長岡の各地区独自の企画で地元での「100周年記念行事」を開催する 交流開始 → 10月祈り開始 → 十字架ルー開始 → 2月20日各地区情報交換会 3月シンボルマーク決定 4月16日 実行委員会ニュース1号発行 5月22日合同正副部会長会議 7月15日実行委員会ニュース2号発行 10月15日実行委員会ニュース3号発行 実行小委員会・事務局合同会議は原則毎月開催	1月中旬 実行委員会ニュース4号発行 4月記念ストラップ販売開始(ご復活日4/2) 4月中旬 実行委員会ニュース5号発行 4月下旬 第三回実行委員会 5月合同正副部会長会議 6月・招待者リストへの案内発送 ・祝賀会出席者把握 7月中旬 実行委員会ニュース6号発行	10.7(日) 10.8(祭日) 百周年記念ミサ・祝賀会 記念誌発行 記念教区大会(新潟会場)



日本キリスト教団新潟信濃町教会 小淵先生

東日本大震災で亡くなられた方々を追悼し、復興のために祈る超教派の祈祷集会が、本日(九月十一日)午後三時から、新潟教会聖堂で開催されました。新潟は本日、真夏のような三〇度超えの暑さ。聖堂の中も凄まじい暑さとなりましたが、七〇名を超える方々が祈祷集会に集まってくれました。大半はカトリックの各教会の方々でしたが、プロテスタントの方々も牧師さん方を中心に一〇名ほどが参加してくださいました。説教は日本キリスト教団新潟信濃町教会の小淵先生。カトリック中央協議会と日本キリスト教協議会で一緒に準備したテキストに従って、途中で独唱やオルガン演奏なども入り、荘厳な式となりました。大震災の発生から半年が経ったも



震災復興のためのミサ

二〇一一年九月十一日(日)
東日本大震災祈祷集会を開催@新潟教会

の、まだまだ多くの方々が復興の途上の中で不安な毎日を過ごしておられます。また大切な人を失った悲しみのただ中にある方も多くおられます。私たちがひとりひとりにはできることも違い、また限界もあります。が、しかし、被災された方々と心を合わせ、自分たちにできることを継続していきたいと思います。これからも何年も時間が必要ですし、その長い時間をともに歩むことも大切です。私自身が担当するカリタスジャパンも、これまで以上の力を込めて支援を継続していきたいと考えています。

(司教の日記より)

地区便り

秋田地区

第二十三回秋田地区
信徒の集い開催

テーマ

「支えあって共に生きよう」

二〇一一年五月八日(日)、菊地司教様をお迎えして聖霊短大を会場に全県の信徒大会が開催された。テーマは「支えあって共に生きよう」。

一、開会セレモニー

はじめに石崎利巳会長の挨拶がありました。宮城でのボランティア活動でヘドロを除去する仕事をしてきたばかりだが、そのときの感じはお互いが支え合って仕事をしてきたことである。それと同じように今日の大会を神様の助けを通してお互いに支え合って行きましよう、との言葉があった。

続いて地区長の桃田清明神父様の挨拶。お互いの再開の楽しみでもある全県大会を充実した日にするよう延べられた。また、菊地司教様の叙階二十五周年であることも紹介された。この他、秋田地区の神父様方の移動の紹介もなされた。最後に菊地司教様の挨拶があり、三月十五日が叙階記念日であるが、震災の関係で十一月二十日の王たるキリストの主日に感謝ミサをあげる予定。叙階されてすぐガーナで七年働いた経験から、援助とは自立を促進させることだと理解している、と述べられた。



秋田マック 岡田勝利氏講演



感謝ミサ

二、プレゼンテーション

十時四十分から①秋田ダルク、十一時三十分から②秋田マックのプレゼンテーションが行われた。①の講師は秋田ダルクの責任者 平原薫氏。スライドを使ってダルクの活動状況を紹介。最後に「ダルクエンジェル」二十五人の男声コーラス、三曲＋アンコール一曲の披露。

②の講師はNPO法人秋田マック理事長 岡田勝利氏。ご自分の体験を通してアルコールに苦しんだ若い頃を紹介された。アルコール等の依存者が回復するために一年三百六十五日、一日三回のミーティングを実施していることなどを話された。

三、ミサ

十三時三十分から十四時三十分までは主日のミサが捧げられた。菊地司教様はじめ秋田地区の八名の神父様による荘厳ミサであった。印象深かった点は九名の司祭による歌ミサ。心に響く良さがあった。

(ホームページのニュースより転載「骨子のみ」)

長岡地区

「何が大事、何が先」
教会活動を振り返る

今年ほど災害が続く年はないと思います。冬の豪雪、東日本大震災そして七月の新潟・福島豪雨。まもなく九月初めの和歌山県を中心とした紀伊半島豪雨です。

特に東日本大震災の当日、大津波に人と住宅が飲み込まれる悲惨な姿が、ヘリから映像で報道されましたが「哀れみ深い神がこんなことをなさるのだろうか」と絶句したのは、私だけでしょうか。

被災された方々の心の苦悩は、私達には、はっきりしませんが、坂本九さんの「上を向いて歩こう」が何回もラジオから流れ、皆の支援の気持ちが一丸となって、「何、負けるものか」と励ましています。

一方私達も、苦しい時に、このままではいけないと思う、がむしゃらに何かをしたり、時間を忘れて仕事をしたりして生活しているのではないのでしょうか、ただその中で、自分の場合は「何が一番大事なのか」と思いつつも、いつも教会のことが最後になってしまいます。

家族のために仕事をしています、家族のために祈っています。とはりっぱな口実ですが、「心のともしび」で読んだ、「泥棒だって家族を愛している」という、それは当たり前だという説明が想いだされます。

さて、長岡



信徒養成講座 (大瀧神父様)

地区では、二月末に今年一回目信徒養成講座があり、大瀧神父様から現実の社会・家庭において使徒職を全うするのは信徒の役割

で、司祭にはできない職であると講話を受けました。

また、六月には糸魚川教会において三十五回長岡地区大会開催され「教会こそ交わりの場」というテーマで、長岡出身の後藤神父様より講演を頂きました。

子どもの頃の長岡の教会の思い出や、カン

ボジアの学校建設にかかる現地の写真を見せていただきました。心のよりどころである教会に感じているか、信者で教会を建設できるか等を考えさせられました。

また、今後の地区行事として、十一月に今年二回目の信徒養成講座「信徒の召命と使命」というテーマで再度、大瀧神父様の講演をいただき開催する予定です。

「何が大事、何が先、忘れていること(教会)はないか」と、まるで親が子どもに毎日言っているように、何を繰り返している私達(私)ですが、ひとつでも教会の研修、体験の中から信仰が具現できることを祈っています。

(長岡地区徒使徒職協議会長 池嶋 泰雄)



地区大会感謝ミサ



後藤神父様 講演

新発田地区・新潟地区

二〇一一年度
新潟地区 春の信徒大会開催

テーマ

「地区信徒のつながりと親睦」

表記をテーマに今年より春と秋の二回の地区大会を開催することになった。

春は、新潟地区信徒使徒職協議会の総会と勉強会を目的として開催し、秋は小教区どうしの親睦を目的として開催します。本年は三月二十六日土曜日、青山教会を会場として新潟地区信徒大会を開催した。

青山教会 創立四十周年を祝う

小教区設立四十周年を迎えた青山教会では、七月三日(日)に、四十周年記念ミサが行われた。創設時の主任司祭、高敷修神父(高田教会)と主任司祭ラウル神父、協力司祭アンリ神父の共同司式による記念ミサには、教会設立以前から支援を続ける「聖心の布教師妹会」修道女を初め、約百名の信徒が参列した。往時の信徒の中には海外から帰省して列席した女性もいて、ミサ後の祝賀会は、高敷師を中心に、思いついで盛り上がった。青山教会では、復活祭の祝日、「聖家族・カトリック青山教会四十周年

大会の概要

開催日…三月二十六日(土)

場所…青山教会

参加者数…信徒五十五名、司祭五名

勉強会の講師は、菊地司教様にお願ひし、年頭司牧書簡に関連して福音宣教に取り組む姿勢についてお話を頂き、その後、信徒大会直前に発生した東日本大地震についての、仙台教区の被災状況と今後の対応についてお話を頂きました。

勉強会後は、ホールにてお話をしながら昼食をとり、昼食後、四グループに分かれて「講話についての全員による分ち合い」をした。

記念誌」が発刊され、聖堂と信者ホールの改装も完了した。十月二十三日には、聖堂で山本真

希オルガンコンサートが行われた。四十年・不惑の節目を迎えた「聖家族のま

なざしの中で歩む」青山教会は、新しい未来

に向かって大きく飛躍しようとしている。



青山教会全景

新潟地区 四旬節 愛の街頭募金

例年、五月上旬に四旬節の愛の献金の活動の一環として、街頭募金を行っている。

今年は古町のデパートが閉店になったこともあり、街頭募金の場所を変更して昨年

まで花園教会を中心に実施していた新潟駅前と万代シティに絞って、新潟市内の教会合同で実施することになりました。今回は、東日本大震災の支援として募金を行った。午前中は、花園教会が中心となり、ボーイスカウトも参加してもらった。ボーイスカウトの信用は絶大で、多くの通行人が募金に協力してくださった。引き続き午後は、新潟教会、青山教会、寺尾教会合同で実施した。街頭募金は東日本大震災の被災者支援を目的としてカリタスジャパンへ送金しました。

山形地区

山形地区大会開催

テーマ

「聖霊による一致」



溝部司教司式のミサ(右) 各教会の持ち味が光った懇親会(左上) 大会中に菊地司教から初聖体の秘蹟を授かった2人の小学生(左下)

九月十八日・十九日の二日間、カトリック山形教会を会場に「聖霊による一致」をテーマにカトリック新潟教区山形地区大会が開催された。山形県内六つの教会から約四百四十人が集まり、各小教区、山形地区、新潟教区の一一致を神様のもと、共に祈り、共に考える大会となった。

講師には前高松教区長の溝部司教様を迎え、福音宣教のあり方、高松教区で経験した問題を例にあげ、宣教とその意味をしっかりとわきま

え、自らが共同体の一員であることへの確かな意識を持たなければ、それがどこにでも起こりうる問題と語られ、一致を作り出すには「信仰を持ち、謙虚に赦しを乞い、失望することなく歩むこと」という言葉をいただいた。

二日目のミサの中で、来年少百周年を迎える新潟教区の菊地司教は、この百周年に向けて、教区から新しい動きが出てくることに期待したいと語られた。

私たち信者が「福音宣教」…福音と自分の関わりを自分に問いかけ、その中心にキリストがいることを再確認させられる二日間となった。

編集後記

広報委員会が再編され第一号の教区報です。経験不足から紙面づくりに戸惑い、発行が一ヶ月遅れてしまいました。

今号より「地区便り」の欄を設け、定期掲載の枠としました。各地区毎の行事や取り組み、小教区の紹介記事などを織り交ぜ、教区内の情報交換と情報共有の場として利用していきます。

今後とも、さらなる紙面の充実を追求し皆様のご意見をお聞きしながら努力していきたいと思っています。

(編集委員)